

総合計画策定市民会議 第2回専門委員会 会議録

【市民生活・環境】

開催日時	平成 25 年 6 月 10 日（月）午後 7 時～午後 8 時 50 分
開催場所	勤労者センター2F 大会議室
出欠状況	総委員数：13 名（出席委員数：10 名、欠席委員数：3 名） 事務局 2 名 欠席委員：宮原 則子委員、土屋 建治委員、栗原 陽子委員
会議の概要	
	進行：副部会長 土屋 鈴子 
開会	（土屋副部会長）
あいさつ （森部会長）	皆さんお疲れ様です。 今回は、先に送付させていただきました資料に整理された論点集約に基づいて方策を考えていくことになっています。資料の“伸ばす・改善するためには”の欄がそれにあたりますが、宜しくお願い致します。
部会長	それでは論点集約の内容に沿って、意見の発表を行いたいと思います。自然環境①緑・水・動植物のカテゴリーから順に、皆さんの自由意見を発表願いま

委員	す。 集約とは手短にまとめることではないのか。そうするとこの項目における論点集約は“おいしい水を確保する”とか“水路やため池をきれいにする”といったようになると考えますが、なぜこういった表現になっているのか説明願いたい。
事務局	“論点集約”はあくまでも事務局が描いたタタキ台のイメージ表現になっています。“良いところ”に掲げられている“南斜面と台地形地”から“雨が少ない”までの13のご意見はすべて「豊かな自然」に関連しているものであります。それを伸ばすためには「継承していく」必要があって、「共に生きる」ことで守られるのであろうという判断の中から、「豊かな自然の継承と共生の実現」（仮称）を提案させていただきました。 先の通知でも明らかにしていますが、この「論点集約」した文言についてもこの表現でいいのかどうか、本日ご議論いただくことになっています。 宜しくをお願いします。
副部会長	この論点集約はタタキ台になっているとの説明です。ご意見はありますか？
委員	“豊かな自然の継承と共生”という表現はイメージとすればいい言葉であると思いますが、実際に何をすればいいのかつかめません。言葉は正しくとも、“じゃあ、何をやるの”につながってこない表現では困るように感じますが如何か。
委員	事務局で整理した（論点集約である施策テーマの）内容は、現行の「とうみエコプラン」に掲げる“基本目標”、“基本施策”、“取り組みの方針”を踏まえての整理であると思います。 この計画は平成27年度までの取り組みをまとめているものですから、ちょうど総合計画の策定時期も重なってきます。このエコプラン計画の内容を参考にして、イメージを掴んでいただき、議論していくことがベースにあらうと思います。
事務局	<中略> 既存の「とうみエコプラン」については、先の通知でご参考にしてくださいと申し上げているとおり、（市民生活、環境分野において）皆さんが考えを巡らせている「こんな市にしたい」「こんな市になってもらいたい」という思いが、今ある現行計画において満足されるものなのか、それとも足りないのかを確認いただくための材料となっています。 （現行計画に）不足する内容はこれから策定していく総合計画へ反映していくことが必要になってくるものと考えます。そういった視点から（現行計画にこ

委員	だわることなく）ご意見、お考えをお出しいただきたいと思います。 この現行の「とうみエコプラン」は一見すばらしいと思いますが“夢の無い計画”になっているように思います。どこの市町村にもあてはまる、画一的に表現されている“キレイな施策テーマ”になっている感じがします。 もっと具体的な手段、方策を引き出せる内容をテーマに据える必要があると思います。
委員	<中略> 第2次総合計画に掲げていく施策については、そのほとんどが第1次総合計画・後期計画に掲げられた施策を継続して取り組むような内容になっています。 しかし、この（計画に掲げられた施策の）中身の見直しをどこまでやったらいいのか、わからない状況があります。 なぜなら、今までの取り組みを「実際にやったのか」「やらなかったのか」わからないから、擦り合わせが難しく、議論できないのではないのでしょうか。 今までの取り組みがどこまで達成できているかを明らかにしないと“見直し”はできないと考えますが、如何か。
事務局	この度の中間検証結果報告書がそれにあたるものです。
委員	それは理解できますが、75点や25点など表記されていますが、市として75点だから継続していくんだとか、25点は問題点があったから手をつけられなかったとか、そういった内容が（この報告書では）市民に見えてこない部分があると言っているのです。 市は評価して点数化されているのでしょうけど、市民感覚でみえてこないとすれば、それはやってないことに等しいのではないかと思います。 市では実際、取り組みを進めているのだけれど、その内容が見えない、或いは点数が高いのはこうした取り組みの成果によるのだといった内容を明らかにしていただかないと、私たちはどういうことを見直して方策提言していいかわからないと思うのです。
事務局	点数化にあたっては、事務事業レベルの評価を積み上げて、評点をつけています。ご指摘のように、そういった内容をすべてオープンにしていかなければわからないという趣旨はそのとおりであると考えます。しかし、この市民会議は主管課長も同席して一緒に考えていく仕組みになっていますので、不明な部分は、本会議に同席する市役所担当課長へ確認いただくなどして、ご理解いただき、議論を前進させていくように宜しくお願い致します。 <中略>

部会長	（事務局の説明不足など、皆さんからいろいろな意見はありますが、話を戻します）皆さんにお考えいただきたいのですが、私の子どもの頃と比較して、例えば所沢川などは水量が減ってきている状況にあると思っています。そんな中で、これから 10 年後の東御市は、今と同じように川は常に水をたたえていると思われませんか？
委員	思いません。自然の継承は大変なことだと考えます。今の自然が素晴らしいのは、小規模農家の方々がすごく丁寧に土地を管理されていることの結果によるものと感じています。 そういった方々がいなくなったら、恐らく自然環境は維持されないのではないかと考えています。（自然の継承なんて簡単なものではありませんが）やはり、市民ぐるみで“農”を守っていくことが、自然を残すために必要不可欠であると感じています。
部会長	私も同様に考えています。経済優先で自然が潰されている状況は否定できないと考えています。農業の見地からそうですが、地球温暖化によって壊されている自然も現実であると思います。 このように、自然の継承とは言いは易いしですが極めて難しくなっている現実があると思います。いろんなことを見直していかないと（自然が）立ち行かなくなるのではないかと考えます。
委員	現行の計画はあるのだけど、この度の計画づくりにあたっては我々が取り組んでいけそうなところ、たとえば“おいしい水を確保するとか”“水量を確保する”といった“水路をきれいにするとか”といった内容になってくるように思います。それがテーマではないかと思います。
副部会長	私は、“美しい自然を再発見する”とか“身近な自然を再認識しよう”をテーマにして、例えばその具体的な方策として“私のお勧めスポット紹介”というようなものを広報で知らしめることによって、大切にしようとする心を育むというように位置づけていったらどうかと考えます。
委員	“里山・森林の保全と活用”（仮称）もそうですが、例えば市有林を市民みんなが手入れするアクションを進めるだとか、手立てはたくさんあるはずです。 市では森林組合に任せたからこの森林は保全されたと思っていますが、本当は子どもたちに森の必要性を理解させる自然教育も兼ねて、みんなで森の手入れを体験するという活動だって必要だったのではないかということです。この度の市民会議のように、最初から市民の意見を取り入れて作っていけ

	ば、かけ離れてしまうことはなかったように感じます。
委員	<中略> 論点集約に掲げられた施策テーマはむずかしい表現になっているように思います。パッとみて理解できる表現にした方がいいと思います。
部会長	それでは、「豊かな自然の継承と共生の実現」（仮称）は、「身近な自然を再認識しよう」とし、方策を考えてみましょう。 テーマ：「身近な自然を再認識しよう」 【方策】 ・私のお勧めスポット紹介→広報などで募って市民へ紹介していく（広報のやり方も考えて、もっとみんなに知ってもらう方策も考える。FM利用など）→PR活動も工夫が大切 ・俳句ウォーキング ・食べられる山野草を探してみる取り組み ・自然体験 ・全市的なホテルの住める里づくり→河川の水質検査の拡充 ・親子自然観察会の実施 ・親子参加の水路保全活動 ・みんなで取り組む河川清掃 ・上小圏域でのふるさと景観めぐり ・とうみのいいところ発見→広報などでみんなに紹介していく
委員	この論点集約に次の内容を加えることも提案します。 テーマ：「おいしい水を確保して水辺をきれいにしよう」 【方策】 ・東御市の泉（水源）を調査して、その現状水質を10年後は高めるような数値目標を掲げ、みんなで保全活動を進める。
委員	論点集約については、エコプランに掲げている「豊かな自然を守る」も踏襲して「水系の環境保全」とドッキングしていけばいいのではないかと思います。
部会長	次に、テーマ「里山の保全と活用（仮称）」についてご意見を伺います。 テーマ：里山・森林の保全と活用（仮称）→「森林の保全と活用」とする。 ・市民参加の森林整備

部会長	…どうやったら市民の参加を得られるかという方法も同時に考えるべき ・学校教育の一環として森林教育を推進する ・市の山（市有林）のPR不足 …市民の森を市民の手で整理できる方策を考えるために市民へ市有林を周知することから始める 次に、テーマ「環境と調和した農業の推進（仮称）」についてご意見を伺います。 テーマ：環境と調和した農業の推進（仮称） →「自給自足農業の推進」としたほうがいい。 ・（荒廃農地対策について）補助事業を有効に活用する。 ・（荒廃地を）農地に戻してもやり手がないのではないかな。 ・中山間地の未整備耕地をどうするかが問題 ・小規模農家が頑張っているから農村環境が維持されている。 …小規模農家が農業を維持できなくなった場合は、市民が代わって家庭菜園として維持する方法を考える。そうすることで自然が守られていく。 ・年金受給者による中山間地農業の維持（デカップリング等の検討など） ・自分の健康維持のために農業をやるという発想があってもいい ・農地提供による家庭菜園の拡大 ・日本一のくるみの里づくりを目指す→くるみ牧場とレストランの設置
部会長	次にカテゴリ「地球環境」の、テーマ「地の利を生かした自然エネルギー活用の推進（仮称）」についてご意見を伺います。 テーマ：地の利を生かした自然エネルギー活用の推進（仮称） →「自然エネルギー活用」としたほうがいい。 ・太陽光と小水力の利用は必要 ・独立型の太陽光発電システムの普及（安価に設置可能） ・サマータイムの導入検討 ・エネルギーを増やすことと減らすことを考える ・節約体験談を広く市民へ周知する ・倏約する方法、節約を学校教育に取り入れる
部会長	次にテーマ「ごみの適正化と資源化の推進（仮称）」についてご意見を伺います。 テーマ：ごみの適正化と資源化の推進（仮称） →「身近なゴミを考えよう」としたほうがいい。 ・生ゴミ処理機の補助制度のPR

副部会長	・食品包装の簡略化の推進 ・レジ袋削減策 ・分別の徹底を進める ・地域版のごみアドバイスボランティアの育成 ・クリーンセンターの熱利用はできないか 時間も経過していますので、本日の議論は終了したいと思います。 次回は7月9日（水）午後7時00分から、この勤労者会館大会議室で行いたいと思います。 長時間にわたってありがとうございました。 本日は、これをもって閉会と致します。お疲れ様でした。 <総合計画策定市民会議事務局> 東御市 総務部 企画課 企画政策係（総合計画担当） 電話：64-5893（直通） Eメール：kikaku@city.tomi.nagano.jp
------	--